

受検表	受検資格	同一教材での複数受検	授業時間	挑戦回数	格になる日	前になる日	受検料	昇級料
F表 (35～39級)	誰でも受検可能	同じ教材で複数回受検してかまわない。			認定された日から半年後	認定された日から1年後	無料	無料
E表 (28～35級)	F表を受けている					2年しても受検しない場合級を取り消す	無料	無料
D表 (21～30級)	①E表を受けている ②指導案を書いていること	1)まったく同じ教材で発問指示まで同じ場合は受検できない。 2)まったく同じ教材だが発問指示は修正した場合において、発問、指示を2～3割変更した場合は可。変更がそれ未満の場合は不可。 3)テーマは同じだが使う資料が変わっている場合は可。	5分位	年間5回まで (1月1日から12月31日までの期間)	1年後	2年後	無料	無料
C表 (11～20級)	①D表22級以上を取得していること ②研究授業50回以上、または模擬授業50回以上 ③TOSSサークル1年以上 ④指導案を書いていること	同じ教材・単元で受検する場合は、指導案の文字が半分以上変わっていることが必要である。	5分～7分位	年間3回まで (前回受検した日から85日が経過していること)	1年後	2年後	無料	20級より有料
B表 (1～10級)	①C表12級以上を取得していること ②研究授業100回以上、または模擬授業80回以上、またはTOSSセミナー等の舞台での発表20回以上 ③TOSSサークル3年以上 ④雑誌論文10本以上、または単著		7分～10分位	年間2回まで (前回受検した日から145日が経過していること)	2年後	3年後	10級より有料	有料
A表 (師範～初段)	A表の受検資格は、2級以上を取得していること。 「2級格」「前2級」となった場合、初めてのA表を受検することはできない。		10分～12分位	四段以下は年間1回まで(前回受検した日から350日が経過していること) 五段以上は2年間に1回まで(前回受検した日から700日が経過していること)	四段までは2年 五段以上は「格」にはならない	四段までは3年 五段以上は「前」にはならない	有料	有料

TOSS授業技量検定 検定審査員の規定

(2019年5月1日現在)

受検表	認定条件	授業時間	受検できる場	審査員の条件
F表 (35～39級)	自分のサークル員も含む受検者の認定が可能		各サークル	20級以上が1名
E表 (28～35級)				
D表 (21～30級)	自分のサークル員の認定は不可	5分位	公開の場	シングル級以上が2名
C表 (11～20級)		5分～7分位	公開の場	初段以上の2名以上
B表 (1～10級)		7分～10分位	各中央事務局及び青年事務局主催の検定セミナー、全国ネットで行われている各教科セミナー、授業技量検定事務局主催セミナー、(いずれも年間1回開催可)	三段以上の3名以上
A表 (師範～初段)		10分～12分位		<ul style="list-style-type: none"> ・五段以上の3名、もしくは向山洋一 ・高段者(五段以上)検定は、「最高段位者」2名による審査を必要とする。 五段になる場合、つまり、四段取得済みの者が受検する場合も、適応される。

TOSS授業技量検定 セミナー開催事務局の規定

(2019年5月1日現在)

受検表	認定条件	授業時間	受検できる場	審査員の条件	受検料	昇級料
F表 (35～39級)	自分のサークル員も含む受検者の認定が可能		各サークル	20級以上が1名	無料	無料
E表 (28～35級)					無料	無料
D表 (21～30級)	自分のサークル員の認定は不可	5分位	公開の場	シングル級以上が2名	無料	無料
C表 (11～20級)		5分～7分位	公開の場	初段以上の2名以上	無料	20級より有料
B表 (1～10級)		7分～10分位	各中央事務局及び青年事務局主催の検定セミナー、全国ネットで行われている各教科セミナー、授業技量検定事務局主催セミナー、(いずれも年間1回開催可)	三段以上の3名以上	10級より有料	有料
A表 (師範～初段)		10分～12分位		<ul style="list-style-type: none"> ・五段以上の3名、もしくは向山洋一 ・高段者(五段以上)検定は、「最高段位者」2名による審査を必要とする。 五段になる場合、つまり、四段取得済みの者が受検する場合も、適応される。	有料	有料

<有段者 画期的な問題提起のある授業><歴史に残る授業分野を10分間で示せる>

- 五段 — 日本教育史に残る新しい分野を創る技能
- 四段 — 過去の日本の授業者のトップクラスと同等の技能
- 三段 — 「教科授業日本一の座」を實力でとれる技能
- 二段 — どの分野でも一流の授業分析、一流の授業ができる技能
- 初段 — 奥行きのある大きな問題提起の授業ができる技能

<上級者 新しい問題提起のある授業><新しい分野、切り口を示した授業>

- 1級 — C表を検定してほとんどすべてに代案が示せる技能
- 2級 — 他人の授業を再現できる技能
- 3級 — C表の検定をして半分に代案が示せる技能
- 4級 — するどい問題提起の授業ができる授業
- 5級 — 何冊かの本を出せる技能
- 6級 — D表の授業検定ををしてほとんどは代案を示せる技能
- 7級 — 一つ一つの授業行為の意味を語れる技能
- 8級 — 問題提起のある授業ができる技能
- 9級 — D表検定して半分に代案が示せる技能
- 10級 — 雑誌連載を書ける程度の技能

<中級者A TOSS、向山型全部の授業とそのマスター>

- 11級 — TOSS、向山型授業のほぼ全部を実践できる技能
- 12級 — 10（教科・領域）で向山型、TOSS型授業のできる技能
- 13級 — E表を判定して、ほとんどすべてに代案が示せる技能
- 14級 — 単著が出せる技能
- 15級 — 校内で、指導法について、しばしば相談される技能
- 16級 — 5（教科・領域）で向山型、TOSS型授業の講演ができる技能
- 17級 — E表を検定して半分に代案が示せる技能
- 18級 — 舞台での発表、模擬授業が20回程度の技能
- 19級 — 自らの主張を研究授業で示せる技能
- 20級 — 学級崩壊したクラスを立て直せる技能

<中級者B 得意分野の向山型、TOSS型授業のマスター>

- 21級 — 雑誌論文20回以上の技能
- 22級 — TOSS教え方セミナーで10種の講座を担当できる技能
- 23級 — 研究授業100回 or 模擬授業200回程度の技能
- 24級 — F表を検定してほとんどに代案が示せる技能
- 25級 — 学級崩壊したクラスで授業を成立させられる技能
- 26級 — TOSSの代表的授業を20位実践できる技能
- 27級 — TOSS教え方セミナーで5種の講座を担当できる技能
- 28級 — センス抜群の新卒TOSS教師2年目の技能
- 29級 — 電子黒板、五色百人一首、酒井式、TOSSノート、英会話を一応授業できる技能
- 30級 — TOSS教え方セミナーで2種の講座を担当できる技能

<初級>

- 31級 — 一人一人に笑顔を向けてスッキリした言葉で授業ができる技能
- 32級 — TOSSの代表的授業5つ位を実践できる技能
- 33級 — 子供に正対してなごやかに授業ができる技能
- 34級 — 跳び箱、赤ねこ漢字、赤ねこ計算が正しく授業できる技能
- 35級 — すんなりと自然に授業ができる技能

A表評価項目		A表認定基準	
1	授業の基本 10点	100点	師範(十段)
2	教材の選択(意味ある教材を) 10点	95点~99点	師範代(九段)
3	教材のポイント(その教材の本当のポイントを示しているか) 10点	90点~94点	八段
4	授業にのめり込むリズムとテンポ 10点	85点~89点	七段
5	授業中熱中して思考しているか 10点	80点~84点	六段
6	授業のあざやかな組み立て 20点	75点~79点	五段
7	教育界への新鮮で骨太な問題提起 30点	70点~74点	四段
		65点~69点	三段
		60点~64点	二段
		55点~59点	初段

B表評価項目		B表認定基準	
1	授業の始まりの見事さ 10点	95点~100点	(二段格)
2	とりあえず発問・とりあえず指示等の不要な言葉の削除 10点	88点~94点	(初段格)
3	子供への対応、応答の明るさ・適切さ 10点	80点~87点	1級
4	発問指示の明確さ適切さ 10点	75点~79点	2級
5	心地よいリズムテンポ 10点	70点~74点	3級
6	子どもが熱中しているか 10点	65点~69点	4級
7	単元構造をふまえた授業の組み立ての深さ 20点	60点~64点	5級
8	教材研究の新しさ 20点	55点~59点	6級
		50点~54点	7級
		45点~49点	8級
		40点~44点	9級
		35点~39点	10級

C表評価項目		C表認定基準	
1	授業の始まり(1分程度) 20点	95点~100点	(7級格)
2	子どもへの目線 10点	90点~94点	(8級格)
3	声の明るさ、さわやかさ 10点	85点~89点	(9級格)
4	子どもへの対応、応答 10点	80点~84点	(10級格)
5	指示発問の明確さ 10点	75点~79点	11級
6	授業の流れ、リズム 20点	70点~74点	12級
7	単元としての授業の組み立ての明確さ 20点	65点~69点	13級
		60点~64点	14級
		55点~59点	15級
		50点~54点	16級
		45点~49点	17級
		40点~44点	18級
		35点~39点	19級
		30点~34点	20級

D表評価項目		D表認定基準	
1	授業の始まり(15秒)のつかみ 10点	48点~50点	(19級格)
2	子どもへの目線 10点	45点~47点	(20級格)
3	あたたかな表情、対応 10点	43点~44点	21級
4	明確な発問、指示 10点	41点~42点	22級
5	心地よいリズム 10点	39点~40点	23級
		37点~38点	24級
		35点~36点	25級
		33点~34点	26級
		31点~32点	27級
		28点~30点	28級
		25点~27点	29級
		22点~24点	30級

E表評価項目		
1	授業最初の作業指示	10点
2	子どもの指名・対応	10点
3	にこやかな表情	10点

E表認定基準	
27点~30点	28級
25点~26点	29級
23点~24点	30級
20点~22点	31級
18点~19点	32級
16点~17点	33級
14点~15点	34級
12点~13点	35級

F表評価項目		
1	子どもの前で自然に歩ける	5点
2	紙を見ないで授業ができる	5点
3	声が自然に出ている	5点

F表認定基準	
12点~15点	35級
10点~11点	36級
8点~9点	37級
6点~7点	38級
4点~5点	39級

(1) 十段を師範とする。
 (2) 三段以上は、かつて日本の教育界で「名人・達人」と言われた教師の現役時代の最高レベルの授業と同等、もしくはそれ以上というイメージ。現在の教育界への、骨太な問題提起を、授業実践を通して次々と提示できる力量もイメージしている。
 (3) 「〇級(段)格」というのは正式認定ではないが、そのくらいあるということ。
 (4) 大学生・大学院生の受検者は「準〇級」の表記となる。準もその程度の力があることとなる。